

【論文】

「援交ブーム」以降の援助交際

—何がどう変わったのか?—

The “Compensated Dating after “Enjo-kosai” Boom”

—What and how has it changed?—

圓田 浩二⁽¹⁾

Koji MARUTA

専門分野：社会学

キーワード：援助交際、メディア、出会い系サイト、業者化、貧困型

要約

1990年代後半に「援助交際」が大きな社会問題となった。現在も、援助交際は存在し、行われている。本稿では、1990年代後半の「援交ブーム」と比べて、現在の援助交際がどう変わったのかを調査する。方法は、インタビュー調査・参与観察・文献調査である。

結論から言えば、1990年代後半の「援交ブーム」と比べて、現在の援助交際の内容が変わっていた。大きく変わった点は4点ある。①メディアによる援交女性の階層化、②非出会い系サイトの出会い系サイト化と出会い系サイトの非出会い系サイト化、③業者化する援助交際、④貧困型の3つの援助交際女性について、それぞれ分析し、記述する。

Abstract

In the late 1990s, “Compensated dating” called “Enjo-kosai” in Japanese, became a major social problem. Even today, compensated dating still exists and is practiced. In this paper, I will investigate how current compensated dating has changed compared to the “Enjo-kosai boom” of the late 1990s. The methods used are interview research, participant observation, and literature research.

In conclusion, compared to the “Enjo-kosai boom” of the late 1990s, the content of current compensated dating has changed. There are four major changes: (1) Hierarchization of women involved in compensated dating by the media, (2) The conversion of non-dating

⁽¹⁾ 沖縄大学経法商学部教授

この原稿は2011年9月15日に完成していた。インターネットのポータルサイト「シノドス」からの依頼原稿であったが、その後音信が途絶えた。『出会い系メディアの社会学—援助交際からパパ活へー』（青弓社）を出版するにあたり、2011年当時の原稿のまま、その時代の援助交際の状況を分析し記録していたという意味で公表する。

sites into dating sites and dating sites into non-dating sites, (3) conversion of compensated dating into business operators, (4) Three types of poverty affected women involved in compensated dating, each of which will be analyzed and described.

Keywords: compensated dating, media, dating site, commercialization, poverty types

1. 「援交」ブーム以降の援助交際

1990年代後半に「援助交際」が大きな社会問題となった。現在も、援助交際は存在し、行われている。例えば、ニュース・ソースとしての「援助交際」の価値は低減し、マス・メディアでの露出度は少なくなったが、事件としての援助交際は、児童買春ポルノ処罰法違反、児童福祉法違反、淫行条例違反で毎日のように事件化され、当事者たちは送検、検挙されている。本稿では、1990年代後半の「援交ブーム」と比べて、現在（2011年当時）の援助交際がどう変わったのかを見てみることにしよう。

方法は、インタビュー調査・参与観察・文献調査である。インタビュー調査は、関東地方で、2009年12月から2011年3月まで行い、14人の少女への面接インタビュー、1人の「援交業者」への面接インタビュー、1人の出会い系サイト経営者への面接インタビューの、計16件が得られた。参与観察では、テレクラや出会い喫茶に客として入店し、参与観察や直接話をするなどして女性たちの話を聞いた。

2. メディアによる援交女性の階層化

援助交際を行うに当たって、買う側も売る側も、コミュニケーションのやり方（媒体）がある。これをメディアと呼ぶ。声かけ、テレクラ（ツーショットダイアルを含む）、出会い喫茶、出会い系サイト、非出会い系サイトである。それぞれ、メリットとデメリットがある。

2-1. 声かけ

声かけは、要するに、ナンパのようなものである。「今暇ですか？お茶でもいかがですか？」「お時間ありますか？」が、「お金、欲しくない？」、「お小遣いあげようか？」に変わっただけである。駅前や有名デパート前、ネットカフェ、夜のコンビニ、繁華街の公園、ラブホテル街近くの街頭など、声かけスポットはいくつもある。多く女性は一人であるが、未成年になると友達と二人で待つという形も多い。男性はスポットに出かけ、それらしき女性と交渉を行う。女性が援交女性であるか分からない場合は、遠くから時間をかけて観察して、判断する。

声かけのメリットは、相手の容姿や年齢がすぐわかり、すぐに交渉に持ち込めることである。デメリットは、男性にとっては援交女性と一般の待ち合わせ女性とを間違える可能性があること、いわゆる「たちんぼ」と変わらないため、挿入系の風俗と変わらず、興ざめな点である。女性側にとっても、メリットは、相手からの声かけを待つだけなので楽な点にあるのだが、容姿と年齢によって、売れる女性と売れない女性のはっきりわかれることである。これは、出会い喫茶と同じである。また場所によっては、やくざから、場所代を取られるケースもある。

2-2. テレクラ

テレクラは1985年に誕生した古いメディアである。援交ブームの最盛期には、全国に3千店舗以上が存在していた。1996年や1997年頃には、いわゆる各都道府県で「テレクラ規制条例」が作られ、数は激減していく。現在（2011年当時）は全国に174店舗あり、「店舗型電話異性紹介業」と奇妙な名前がつけられ、風俗営業許可を得て営業を行っている。男性客が入会料と入店料を払い、個室に入り、無料でかけてくる女性からの電話をとって、話をするというシステムである。

筆者が行ったのは、東京・池袋のテレクラ2店舗と、大阪・梅田の1店舗である。池袋のテレクラの一軒は5回ほど訪れたが、繁盛していた。というのも、女性からの電話が鳴りやまないのだ。女性が求めるのは、援助交際による金銭獲得である。年齢確認制度のおかげか、未成年からのコールはほとんどない。20代、30代を中心とした売春目的だ。金額は、1.5万円から2万円。パンツを売るとか、手や口で射精させるか、そういう援助交際はほとんどなくなっている。彼女たちが欲しいのはまとまった金銭である。平日の昼間は、無職の女性、主婦、「平日が休み」だというOL

などが電話をかけてくる。加えて、夕方6時以降は、池袋をターミナル駅とする仕事帰りのOLたちが参加する。夜のテレクラは、頻繁にコールが鳴り、男性客の出入りも激しい。女性からの電話は、この売春コールがメインであり、たまに、暇つぶしの主婦や、寂しさを紛らわせるために精神病院(?)からかけてくる女性がいたりする。女性の容姿はというと、中の下から下という感じである。心が病んでいるか、性格的にもっさりした、無感覚な女性が多いという印象を受けた。経済的、精神的、身体的に苦しい生活を送っている女性が最後の手段として、利用するのがテレクラである。

テレクラのメリットは、男性と女性にとっても、手早く交渉ができ、目的を達することができる点である。男性はセックスによる射精、女性は金銭である。デメリットは、電話のみの交渉なので、相手の顔がわからないために、会ってからイメージが違うや「生理的に無理」という理由でお断りやすっぱかしにあう確率が高いことである。今やテレクラは半素人による売春の場であり、ソープやホテルには金銭的には無理や抵抗のある、そして、時間のない男性の性欲処理場となっている。十数年前のように、テレクラでインタビューを申し込まれて、それに応じるという好奇心も気力も余裕もない感じを持った。

2-3. 出会い喫茶

出会い喫茶は、2000年頃に誕生したとされている。現在は年齢確認義務が強化され、一応未成年は入店できなくなっている。男性客が入会料と入店料を払い、店内に入り、マジックミラー越しに、女性を見て、気になった女性と話をするというシステムである。女性の年齢は、18歳から30代前半までで、それ以上の年齢の女性はいないようだ。女性たちは、お菓子やジュースが飲食



画像1 テレクラの個室 大阪・梅田
2010年7月29日 筆者撮影

でき、テレビやパソコンなどが無料で使え、開店時間から閉店時間までいてもいい。ただ男性からのトークの希望が入れば、個室に赴き、顔合わせをして10分間の話をする。交渉が成立すれば、男性は女性に謝礼を払う。例えば、ご飯やカラオケは5千円、おおっぴらではないが、手や口で射精させる行為が1万円、割り切りである売春が2万円から5万円といった感じである。売春価格は、女性の年齢と容姿によって変わってくるし、男性側の交渉術も必要になってくる。若くて容姿の優れた女性は、3万円とか、絶対譲れない最低ラインを持っている。店の綺麗さによって、女性の数と質が決まり、男女とも入れ替わりが激しい。もちろん援交目的で来店している男女が多い。



画像2 出会い喫茶の様子 東京・池袋東口
2010年3月14日 筆者撮影

出会い喫茶のメリットとデメリットとは、ちょうど声かけとテレクラを中心に位置している。メリットは、男性側にとっては女性を容姿で選べて、交渉能力とお金次第で自分の望む行為を選択できる点にある。女性にとっては、別に性的行為をしなくてもお金がもらえる点にあり、また時間つぶしの場ともなる。女性同士で訪れる場合も多く、ネットカフェ感覚で利用している者もいる。デメリットは、女性にとっては、直に自分の女性としての商品価値が分かることであり、価値が低いとされる女性にとっては居づらい場所である。男性にとっては、周りの男性に自分の顔が知られる点と、女性たちが援交目的かただの暇つぶしかを見分けるのが難しく、援助交際価格がやや高めな点にある。

2-4. 出会い系サイト

出会い系サイトは、もともとパソコンでの出会い、メール交換やチャットの延長線上にあり、開始時期を定めるのが難しい。2011年3月4日にインタビューを行った大手出会い系サイトの社長によれば、1997年には南九州でパソコンを媒体とした出会い系サイトが誕生している。これが今日の大手出会い系サイト（「ワクワクメール」）の最初の姿である。1999年に、iモードが登場し、携帯からもインターネットに接続されるようになると、サイト数と利用者が激増していく。2003年には児童買春の温床となっているとして、インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律、いわゆる出会い系サイト規制法が施行された。現在では、身分証のメールでの添付により、年齢認証を必ず行っているが、未成年者の利用は絶



画像3 ワクワクメールの職場 東京・六本木
2011年3月4日 筆者撮影

えない。母親や姉の身分証を利用するためだ。サイト側にとって欲しいのは、実年齢と本人確認ではなく、身分証に記された番号だけなのである。他の部分は隠して送っても、年齢認証が取れてしまう仕組みだ。料金システムは、テレクラと同じで、男性は前払いによるポイント購入で、女性の利用は無料で、逆にメールの送受信や画像を投稿したりすることでポイントをためて、現金化することもできる。利用者の数は少ないが、何らかの方法で認証をパスした中学生や高校生の少女から、60歳代までの男女までと幅広い。掲示板には、「ミドルエイジ」や「シニア」のコーナーまである。

出会い系サイトのメリットは、男性は、いつでも都合のいい時間に、プロフィールから好みの女性にメールを出し、コンタクトを取ることができる点にある。真面目な恋愛相手から、不倫、セフレ、同性愛、援交相手まで、幅広く見つけることができる。メールだけなので気軽にできる点にある。女性にとっても同じことが言える。女性にとって無料な上、日記コーナーやゲームコーナーも利用でき、貯めたポイントを現金化もできる。出会い系サイトのデメリットは、男性には意外と多くの金銭がかかる点にある。メール1通50円だが、一人の相手と何度もメールのやりとりをせねばならず、必ずしもメアドや電話番号の交換、ましてや実際に「出会う」まで、多くの女性と複数回のメールのやりとりをしなければならない点にある。また、会えたとしてもプロフィールや事前に聞き出した容姿とは違っていたり、すっぱかさされる点もある。また、援助交際目的の男性は業者と呼ばれるプロが派遣した女性と当たるケースも多い。また、不良サイトと呼ばれるだましのサイトが多く、詐欺同然の所も多い。女性側のデメリットは、男性と同様、会えたとしても、プロフィールや事前に聞き出した容姿とは違っていたり、すっぱかさされる点もある。

非出会い系サイトは、出会い系サイト化の問題として取り上げる。大手出会い系サイトの会員数の10倍をもつミクシー、モバゲー、グリーが三大手である。携帯電話の普及に伴い、中高生の利用が多い。先に紹介したように、テレクラ、出会い喫茶、出会い系サイトは年齢確認を行っており、18歳以下の少女との援助交際を望む男性がいるならば、ここで探さなければならなくなる。特に、モバゲー、グリーは無料ゲームをサービスとして提供しているが、ある段階に到達すると課金が必要になってくる。その課金目当ての少女たちに話をもちかけたり、あるいはサイト内でモデルなどのバイトの募集を行ったりして、目的の少女たちを探す。あるいは、業者が行っている手法だと、ミクシーならミクシーのアカウントを10、20単位で買い上げ、援交相手を募集する。すぐにアカウントは削除されるが、また新しく立ち上げればいい。こうして、非出会い系サイトの出会い系サイト化が進む。

非出会い系サイトの男性と女性とのメリットは、まず後ろめたさがない点である。そして無料である点である。デメリットは、男性側にとって、援助交際に応じる少女がなかなか探せないことにある。援交を持ちかけたことについて女性側からのサイト運営者に通報されれば、利用停止になってしまう。そしてなによりも大人の男性が未成年の女性と知り合うことに規制をかけられているために難しく、いくつかの段階を経ないといけないことにある。女性と言っても、少女側であるが、デメリットは、ポイント目当ての場合、援助交際なのかポイントのためのバイトなのかかわからず、深みにはまってしまい、犯罪に巻き込まれる可能性が高い点にある。

3. 非出会い系サイトの出会い系サイト化と、出会い系サイトの非出会い系サイト化

3-1. 非出会い系サイトの出会い系サイト化

非出会い系サイトの出会い系サイト化とは、上に記したような状況を指している。筆者が援助交際のインタビュー募集を、出会い系サイトで行っていたところ、メールで、ウェブマネーを買ってくれるなら、取材に応じますという少女が現れた。会う前に、ウェブマネーを買っておいて欲しいのだという。会ってから必ずインタビューの取材料に応じたウェブマネーを買いメールで返信したのだが、結局、取材の話はうやむやになって、少女とは会えずじまいになってしまった。オンラインゲームか、携帯ゲームにはまり、ポイントがなくなったために、援助交際を行っている少女なのだろう。このように、ゲーム内のアイテムか通貨をかうために、援助交際を行う少女は実在する。そして、そういう少女を狙ってかう男性も存在しているはずである。携帯ゲームを行っていたら、何10万円、100万円以上の請求が来たというニュースも耳にする（「オンラインゲームで高額請求 中学生以下のトラブル増」2011.8.11 神戸新聞）。例えば、オンラインゲーム内で、数万円もするレアアイテムがどうしても欲しい場合、それ相応額のポイントを手に入れなければならない。そういう少女たちを狙って、「バイト募集中」のメッセージを送ったりするのである。

あるいは、ミクシーなどで、怪しげなコミュニティを立ち上げる。わかる人にはわかるというコミュニティである。それはすぐに通報か、検閲に引っかかって、消えてしまう運命にあるが、メアドなどの連絡先などの情報は短期間で、閲覧できる。こうして、家出少女や援交少女を集めることができる。これが非出会い系サイトの出会い系サイト化である。素人が集まるがゆえに、セミプロ化したテレクラや出会い喫茶、出会い系サイトでは会うことや集めることができない女性たちとコンタクトを取ることができる。

3-2. 出会い系サイトの非出会い系サイト化

次に扱う出会い系サイトの非出会い系サイト化とはこの逆の問題である。出会い系サイトは、誕生した当初は、純粋な出会いを求める男女も多く存在していたが（今も少なからず存在はしている）、援助交際目的の利用者が多くなってしまい、出会い系サイト＝援助交際というイメージが定着してしまっている。出会い系サイトには、「ピュア掲示板」と「アダルト掲示板」があり、圧倒的に後者の利用者が多い。出会い系サイトは、男性からの課金、つまりポイント購入で成り立っているため、実現するかどうかわからない出会いや恋愛よりも即時に実現可能なセックスを求める男性が多くなってしまう。出会い系サイトの運営の正否は、そこが詐欺サイトでないならば、いかに多くの素人の女性を集めるかにかかっている。

業者で働き、風俗経験もある25歳の女性は、店からはプロだと気付かれぬために「とにかく仕事をしない」（男性客に性的サービスを過度に提供しない）ようにと注意を受け、客である男性と会って性行為に及ぶ際に「えー？わかんない。やったことない」と素人ぶると、援助交際男性も喜ぶと言う [家田 2004 p.216]。金銭を対価にして、素人女性に性的サービスを求める男性たちと、性的サービスを売る素人女性が存在し、そして会うまでのコストと時間が多くかかるならば、そこには仲介者が現れる。いわゆる「業者」と呼ばれているプロ組織である。アダルト掲示板の場合、この業者による、女性を装った書き込みが8割にも及ぶという。

そこで、出会い系サイトが目指したのが健全化とも受け取れる、非出会い系サイト化である。

いわば、ミクシーやモバゲー、グリー化である。現在では、大手出会い系サイトには、次々と新しいコーナーが誕生している。ある大手出会い系サイトは、「新世代の恋愛コミュニティサイト」と称し、ヤフーのような最新ニュース情報を知らせるコーナー、ユーチューブのような動画コーナー、女性向けのショッピングコーナー、料理レシピコーナー、健康診断コーナー、日記コーナー、アニメコーナー、ゲームコーナー、恋の悩み相談室、占いコーナーなどを設け、出会いだけでなく、いかにして女性たちをサイトにアクセスさせ、女性たちをできるだけ長い時間、サイト内とどまらせるように努力しているように見受けられる。そして、女性が獲得したポイントは、楽天のポイント等価で交換できる仕組みになっている。社会的貢献の示すためか、地震災害特設ページが設けられ、義援金を募集している。イメージアップの戦略である。一番多くの会員を抱える出会い系サイトでさえ、ミクシーの会員数の10分の1以下だという。出会い系サイトの非出会い系サイト化は、出会い系サイトの生き残り戦略でもあるのだ。はたして、これがうまくかどうかは、ユーザーの受け止め方次第にかかっている。2022年8月段階で、大手出会い系サイトの「ワクワクメール」や「ハッピーメール」は生き残っており、2010年あたりと比べると、会員同士のやりとりは格段に少なくなっているものの、「飲み友達がほしい」というような出会いや援助交際の交渉の場として生き残っている。

4. 業者化する援助交際

4-1. 業者とは何か？

「業者」については、2004年には「援助屋」という名前で昔は呼ばれていたようだ〔家田2004 p.215〕。援助屋は、新宿の裏社会の新商売として紹介されているから、当時はそれほど認知されていなかったのだろう。

現在は、出会い系サイトの売りであるアダルト掲示板に浸食して大きな問題となっている。誰にとって大きな問題か？ セックス目的で利用する男性ユーザーはもちろん、サイトの運営者、そして、業者を利用していない援交・非援交女性にとって、大きな迷惑なのだ。事情を簡単に説明しよう。これは、業者の人自身が語っていたことなのだが、今や、出会い系サイトのアダルト掲示板の「今スグ」に書き込まれた女性のメッセージの8割が業者による書き込みであるという。出会い系サイトの女性登録者の半分が業者であると語っていた。

男性利用者は、掲示板への書き込みのパターンや、相手が指定してくる待ち合わせ場所によって、メール相手や実際に出会った女性を、業者ではあるかないかと判別する。大手匿名掲示板『2ちゃんねる』（2022年には『5ちゃんねる』）の出会い系サイトのスレッドは、誰が業者に雇われた女性であるかという情報を提供し合う場ともなっている。やはり、男性はプロではなく、誰かに管理されていない女性と出会いと性的行為を求めているのだ。そのため、業者の判別にはうるさいし、業者が多くなれば、他のサイトへと移動してしまう。課金を行う男性客が減ることは、出会い系サイトにとって大きな痛手となる。そのため、業者と思われる女性会員を利用停止するなどの対策を採っているが、携帯機種と携帯番号が会員登録の基本情報となるので、業者側とはばしの携帯を10本、20本と買っていると、業者の人間は語っていた。つまり、業者の特定とその登録者の排除は、まさに「イタチごっこ」なのである。女性にとっても、業者は「うざい」存在である。援助交際で待ち合わせをしていたら、やってきたのが業者の男性で勧誘されたとか、よ

く掲示板で援助交際相手の募集の書き込みをする女性が業者に間違えられたりと、出会い系サイトをj利用する女性にとっても、迷惑な存在なのである。

4-2. 援交女性、特に援交少女が利用するメリット

しかし、援交女性、特に援交少女にとっては業者を利用するメリットも大きい。筆者がインタビューを行った業者は、5年以上業者を続けている。新宿と池袋に事務所兼女性の待機所をもち、先月の売り上げは220万円から230万円、90万円の利益を出している。学生が多くなり、その学生が友達を誘う夏は売り上げが3百万円を超える。在籍している女性は15歳から26歳までの12人、このうち未成年が6人となる。未成年者は、家出少女だったり、風俗店の面接に行つて年齢で引つかかってその受け口になったり、スカウトから紹介されたりで集まっていると言う。15歳の少女で2.5万円から4万円の価格、26歳の女性で2万円となり、露骨に年齢差が出ている。しかし、今では、児童買春ポルノ処罰法の関係もあつて、18歳未満はお断りという男性客もいるという。業者と女性の取り分は、「折半」で1:1となる。つまり、男性から2万円を支払ってもらえれば、女性の取り分は1万円となる。女性にとっては、これを安いと見るか高いと見るかである。業者に雇われれば、自分で男性を捜す手間が省け、待ち合わせ場所まで送つてくれ、終わるまで近くで待機してくれる。トラブルがあれば、助けに入ってくれる。家出少女にとっては、事務所兼控え所で寝泊まりもさせてくれる。稼げる女の子で、週5日出勤で、50万から60万円稼げると言う。

援助交際における業者化は、ここ2、3年で増えてきたという。新宿だけで30業者は存在しているそうだ。理由は、法律の規制のため、18歳未満の少女たちが年齢認証のため出会い系サイトを利用する敷居が高くなったこと、男性側でも18歳未満の女性=児童を買春することがあまりにリスクが高くなったことである。後者について、逮捕され、検挙されれば、名前はメディアに出てしまふし、家族や親族には知られてしまふし、仕事も首になり、妻子がいれば離婚される可能性が高い。つまり、男性の家族と社会的生命を失ふことになりかねない。このため「少女お断り」の援交男性が出てくるのだ。少女たちにとって、業者は援交を行う上では必要な存在となっている。特に、家出少女など、戻場所を失つた少女たちにとって、これは言い過ぎかもしれないが、業者は居場所を提供し、彼女らを保護しているのだ。業者にとって、一番気にかけているのは、女性たちのメンタルケアだと言う。精神的な問題を抱えている女性、特に少女たちも多く、心理学の本を読み、彼女たちの悩みや愚痴を聞いてあげているのだと話していた。援交業者が居場所を失つた少女たちに居場所と仕事を与え、「保護」していることは、たとえ援助交際させているとしても、注目すべきことである。

売り上げについて、業者は年々減つてきているという。業者数も年々減つてきている。しかし、業者になることは実は簡単なことである。出会い系サイトで、女性に会つて交渉し、客を紹介するから、分け前はいくらかと話をつければいい。2、3人の女性を抱えれば、業者の成立である。2010年4月には、山口県の男子高校生が東京都内で女子中高生の援助交際を仲介する「援デリ」を行つていたとして、児童福祉法違反と売春防止法違反容疑で逮捕されている[時事通信社2010.4.30]。彼は、14歳から17歳の少女20人を抱え、年間1千万円を売り上げていたという。あるいは、2010年5月には関西学院大学の学生が仲間2人と、「女子高生」を含む15人を雇つて「援デリ」を行い、半年間で1千万円以上を稼ぎ、児童福祉法違反と売春防止法違反容疑で逮捕され

ている[産経新聞 2010.5.21]。このことから、理解できることは、素人の風俗経営者化である。携帯1本あれば、誰にでもできてしまう仕事なのである。

1990年代後半の「援交ブーム」の時には、素人女性、特に「女子高生」が注目されたが、現在、注目すべきなのは、素人の「業者化」や「援デリ化」である。彼ら／彼女らの場合、商品価値の高く危険な「女子高生」を商品として売り出してしまったため、児童福祉法違反で逮捕されたが、これが成人女性なら、なかなか足はつかないだろうと考えられる。携帯1本で、高校生1人でも、業者になり、同じ高校生の女子を商品として売り、売春させる時代なのである。

千葉県市川市で会ったユウは20歳、援助交際歴は6年、中学2年生の時に、初体験相手が援助交際男性で3万円をもらって、援助交際自体は、現在も続けている(2011.8.14時点)。援助交際体験人数は、「数え切れない」と言うほどで、軽く100人は超えている。彼女は、親バレ、やくざとの付き合い、やり逃げ、覚醒剤の使用、業者に雇われる、援助交際相手との「彼氏、彼女」での付き合いなど、援助交際を行う女性が経験することはたいがい経験している。彼女の話で面白かったのは、業者に雇われ、その手法を学んで短期間であれ、自分が業者の仕事をやっていたことだ。援交少女が業者の従業員になって、同じ少女を雇い、援交させて給料を稼いでいた。ユウの業者としての仕事は、事務所で、援助交際男性の客を見つける仕事で、彼女曰く携帯を「ポチポチする仕事」だった。日給2万円、9人の女性を「まわしていた」と言う。業者は、やくざの「ケツ持ち代」も支払わねばならず、「女の子」自体の入れ替わりも激しいが、業者自体の入れ替わりも激しいと語る。

先に紹介した新宿と池袋で営業している業者は5年間も続いている。長く営業できている秘密は、やくざや風俗、闇金、風俗の名簿業者などの「裏社会」との多くのコネクションをもっているからだと話していた。業者自体は、携帯1本で誰でもできるが、摘発やトラブルに対応できるシステムをもたないと、上に挙げた高校生や大学生のように、足がついて、捕まってしまう。これが、出会い系サイト内で起こっている援助交際の業者化の実情である。こうして、出会い系サイトは、より多くの素人の女性を集めるために、非出会い系サイト化していく。

5. 援交少女たちの現在(2011年)

5-1. 援助交際の女性の類型

2001年に出版した自著『誰が誰に何を売なのか?』で、1990年代後半の「援交ブーム」の中で、数多くの援助交際女性へのインタビューを記述し、分析を行っている。その中で、援助交際女性を、3系統4類型にわけていた。金銭獲得型のバイト系、快楽追求型の快楽系、内面希求型の魅力確認系とAC系である。バイト系は、金銭目的に短期間で大金の稼げるバイトとしてとらえる女性で、中高生など比較的若い女性が多く、性行為の際には「マグロ」状態で、心と体を切り離している場合が多い。快楽系は、金銭ももらえて性行為も楽しめて「うれしい」というタイプだ。魅力確認系は、自分の「女」としての性的魅力を確認するタイプで、容姿に恵まれなかったり、20代後半以上の女性が多い。AC系は、心に傷を持ち、援助交際を行う女性である。1990年代後半に流行した言葉で、「アダルトチルドレン」という言葉があった。ACはその略であり、もともとは「アルコール依存症の問題を抱えた家族のなかで成長した大人」(Adult Children of Alcoholics)という意味であったが、今日では「機能不全家族のもとで育ち、大人になった人」[斉藤 2004]

を指し、トラウマを抱えている男女のことを指していた。心に傷を持った女性が「傷を癒す」、「男に復讐する」、「仕事やバイトはできないからとりあえず援交する」と言った理由で、援助交際を行っていた。AC系は、今の言葉に直すと、「メンヘル系」と言い換えることができるだろう。

今回の調査で、14人の少女（1人は20歳）にインタビュー調査を行ったが、荻上の類型〔荻上2011〕と照らし合わせると、必ずしも全員がこの類型に当てはまるわけではないが、次のように改めることができるだろう。「格差型」はバイト系、渋谷毎晩飲んで騒ぎたいという東京六大学に通っているギャル系のナナや、新宿でホスト遊びに明け暮れるために援交をする高校2年生のサオリなどが該当するだろう。また、池袋で会った19歳の偏差値60ぐらいの筆者立大学生に通うユイは、実家か東京で実家から通えるところにあるが、「一人暮らしをしたくて」援助交際を行っている。「H(エッチ)込み」で2万円だという。世田谷区に住む私立高校3年生のユリコの場合は、ライブに行くお金ほしさに、援助交際を行っている。H系なしの、食事のみで5千円の援助交際である。出会い系サイトで相手を探すか、決して自分からは掲示板に募集の投稿はしないという。

5-2. 貧困型の3つのタイプ

「貧困型」は、経済的、精神的、身体的貧困に分けられるだろう。経済的貧困型は、早慶に入学できる学力を持ちながら特待生でMARCHに入学し通って勉強しながら家計を支えている19歳のサクラがその例である。父子家庭で、父親は無職、高校入学時に元母に会いに行ったとき、その母の交際相手からレイプされ、処女を失っている。現在は援助交際をこなしながら、某マンガ家の住宅を「週一回メイド服を着て掃除をする」というバイトを行っている。報酬が高額で定期券を買う金銭もくれるから出かける際には何かと便利で、ずっとやり続けているのだという。

精神的貧困型は現在よく見られるタイプである。横浜の17歳の高校3年生のアイカは、処女で、そのことを売りにして、「手こきフェラ」で8千円から1万円のお金を稼いでいる。今時、手こきで1万円と言う「バカにするな」という返事が返ってくるそうだが、処女の体を自由に触れるという条件をつけると、応じる者が現れるという。彼女はリストカッターでもある。

同じようなリストカッターは、新宿で会った19歳のミミもいる。左手はリストカットの傷だらけ舌にはピアスと痛々しいが、頭の回転も速く風俗店で勤めていた経験もあるのか、丁寧にしっかりした口調で話す。プライベート以外で、お金を絡む「Hをした経験は、軽く100人、200人を超える、笑えないですよ」と語っている。風俗は、ヘルス、デリヘルを経験し、1番ついた日で7人ついて9万円であったという。業者に雇われた「援デリ」の経験もあり、その経験を生かして、詐欺系の出会い系サイトを26歳の男性と一緒に経営している。要は、素人の女の子を装って登録したり、過去の援デリでの男性客のメアドに、援助交際の誘いのメールを送ったりして、課金をさせる。決して素人の女の子には出会えない出会い系サイトである。ミミは、新



画像4 ミミのリストカット跡 東京・新宿
2011年3月19日 筆者撮影

宿を舞台に、援交したり、ヘルスをやったり、キャバクラの一日体験でお金を稼いだりしている。また先に紹介した、千葉県市川市で会ったユウもまた、このタイプに当てはまる。セックス依存症で、筆者に言わせれば「快楽系」と受け取ることもできるが、援交で知り合ったやくざと付き合い合ったり、今の彼氏が援交で知り合った自称「サラリーマン」で、とりあえず「男」がいないとダメなタイプである。

身体的貧困型は、調布に親と同居している、大学を入れてすぐに中退、19歳の専門学校生のナミが当てはまるだろう。高校3年生の秋に、援助交際にはまった。きっかけは、好きな人に振られて、寂しさを紛らわせるために、プロフに投稿したが、男性と出会って「ヤリ目（目的）」の男性にセフレにされてしまっていた。最初のセフレの相手に初体験する。5人と無料でセックスしたが、「体の関係で寂しさを埋める」が「帰ってからすごい虚無感に襲われた」という。そのサイト経由で、出会い系サイトを利用した。

5-3. 19歳の専門学校生のナミのケース

ナミは失恋をきっかけに携帯サイト『前略プロフィール』に登録し、そこから非出会い系サイトに誘導され、男性と出会いセフレにされた。その後、セフレを辞めて出会い系サイトで援助交際を始める。駅のエスカレーターで男性が後ろからナミの体を触るだけの「痴漢プレー」で3千円をもらった。これがナミの最初の援助交際だった。以降、援助交際の深みにはまっていく。体験人数は40人で、リピーターも多く、1ヶ月で30万円を稼いでいた。土日は、1日3人と会っていた。相手の男性の年齢は17歳から46歳までである。「明日2日以上で新宿で会える人いませんか」と書き込むと、20件ほどの返事が返ってくる。30分でセックスを行って3万円とかもらったりしていた。最低ラインは、2万円で、フェラチオは絶対ダメで、キスはできればしないのが条件である。キスは好きな人にしかしたくないそうだ。

最初話を聞いていると、格差型のバイト系か精神的貧困型に当てはまると考えたが、次のエピソードから、好きな人に振られて1回会っただけのセフレに処女を奪われ、援交相手の男性に本気で好きになってしまったエピソードで、身体的貧困型と考えた。彼女が求めていたのは、「女」としての自分のプライドの奪回と回復であった。

28歳のサラリーマンである援交相手に最初に新宿で会ったとき、「ビビッ」ときて、本当に好きになってしまう。彼女曰く「本当に安心できる相手」で、彼女はホテルに入ってすぐベッドで何もせず、寝てしまう。相手の男性は、その間何もせず起きるまで待っていたと言う。約束の2万円のうち1万円を返して、「今日は楽しかったんで、1万円返します。もしよかったら、もう一度会っていただけますか」と言って別れた。次の週に、ナミはチーズケーキを作って持って行き、ホテルで何時間も過ごしていた。「楽しくて」お金はもらえないと思って、普通の恋愛関係になっていく。援交から始まる恋愛もあるのだ。これまで何人と付き合い合っていると言えないほど、「彼氏・彼女」の関係を持つことができなかつた。最長で1ヶ月、最短で3日、彼氏と呼べそうなのは、5人ぐらいだった。援助交際で知り合った彼が本当の「彼氏」と呼べる存在だった。彼女は、自分の身体に関するコンプレックスをもっていた。それを埋め合わせるのが、お互い寂しい者同士が出会う援助交際にはまっていった。

あと、彼女の話で面白かったのが、高校2年生の男子に3万円をもらって、性行為をしたことだ。

素直に「申し訳なかった」と思ったという。高校生が高校生を相手に、買春する、売春する時代が到来している。彼女の恋愛話のように、今や若い10代の男女にとって、彼氏・彼女の関係は非常に境界が曖昧で、もろいものである。本命とセフレとの関係の判別も難しい。ナミは今好きな人があるのだが、その相手には本命の付き合っている彼女がいて、ナミはその男性とは肉体関係のみを持っている。このような状況の中で、気持ちや心ではなく、成人男性と同じように、お金で欲しい物＝性行為を手に入れようとする高校生がいてもおかしくないと言えるのだろう。

6. 結論

以上のように、1990年代後半の「援交ブーム」と比べて、現在の援助交際は大きく変わっていた。

1つ目は、援助交際メディアによる援助交際女性の階層化である。声かけ、テレクラ(ツーショットダイアルを含む)、出会い喫茶、出会い系サイト、非出会い系サイトである。それぞれ、メリットとデメリットがあり、援助交際を行う男女を階層化している。特に、女性にはその傾向が著しい。

2つ目は、出会い系サイトの非出会い系サイト化と、非出会い系サイトの出会い系サイト化である。業者の参入で出会い系サイトから素人女性が逃げ出すと、特に少女を買春することを目的にする援助交際男性は、ミクシーやモバゲー、グリーといった非出会い系サイトへと流れていく。出会い系サイト側は、素人女性を確保しようと、非出会い系サイト化を目指していく。

3つ目は、出会い系サイトの非出会い系サイト化をもたらし業者の問題である。インタビューを行った業者自身が語っていたことだが、出会い系サイトのアダルト掲示板の、女性側の8割が素人女性を装った業者の書き込みである。1990年代後半の「援助交際」は、現在では成立しにくくなっている。「素人の売春」とも言われてきた援助交際は、資本の原理によって、10年後にはプロによって、偽装された「素人」の女性による売春へと変化していった。そして、業者は、携帯1本あれば始めることができるので、もと援助交際経験者や大学生、高校生までもが参入できるようになっている。

4つ目は、援助交際女性の変化である。1990年代後半の「援交ブーム」の際、筆者が行ったインタビュー調査の結果、援助交際女性たちを、3系統4類型にわけていた。金銭獲得型のバイト系、快楽追求型の快楽系、内面希求型の魅力確認系とAC系である。この分類は今でも有効であると考えているが、言葉を現代風書き改めると次のようになる。バイト系が平凡な日常や自分を変えるために必要なお金を獲得する格差(落差)型、経済的な困窮から援助交際を行う経済的貧困型、以前のAC系に該当するメンタル面での問題を抱えながら援助交際を行っている精神的貧困型である。以前の魅力確認系に該当する自分の「女」として価値を確認したり肯定する機会を援助交際に求める身体的貧困型である。快楽系は、格差型にも貧困型にも見ることができる。

例えば、東京六大学に通っているギャル系のナナは当初には援助交際の性行為には無感覚に対応していたが、体が慣れてくると快感を感じるようになったと言う。よく風俗嬢や援交少女が語る「心と体は別」で、愛のあるセックスと愛のないセックスによって性的快楽を得る得ないは、実はその当人の内面での線引きによるもの(心的に構築された壁・境界線)に過ぎない。1990年代に見ることができなかった類型は、経済的貧困型である。19歳のサクラはまだ若い、シングルマザーやフリーター、派遣社員、成人した無職の女性に多く見ることができる。それは、今回の調査が20歳以下に限定したものであったからだと考えられる。

5つ目は、ナミの事例が示すように、恋愛とセックスと金銭の関係がもはや確固たるイメージをもって、見る、考えられなくなったことである。その男性に彼女がいても接触できるのなら、セフレでもかまわないし、好きになったら、別に出会いが「援交」でかまわず真面目に付き合う。そして、性的行為に金銭（または、ゲームサイトのポイント）が介在し、それを売り買いすることも、時と場合によっては、「あり」なのである。高校2年生が県をまたいで誰にも知られない土地で高校3年生を買うというのも、「あり」得るのである。

最後に、今回の調査は「援交研究」の終焉を知らせるものだった。1990年代後半の「援交ブーム」の時代、『援交少女とロリコン男ーロリコン化する日本社会ー』のデータを集めていた2004年に比べると、調査がたいへん難しくなっている。「H系、お触りなし。話をするだけで3000から」というメッセージを書き込めば、複数のメッセージが返ってきた。しかし、出会い系サイトの自己規制、業者化によって、女性たちがサイトから離れると、ほとんど返事が返ってこない。ましてや、年齢認証のシステムが導入された出会い系サイトで、18歳未満の少女を探し、インタビューを行うとなると至難の業になってくる。援助交際はなくならない（今ちょうど2011.8.16、沖縄で「高校教師30歳が中学3年生女子14歳を1万円で買春」とニュースが入ってきた）が、もともと「援交研究」は調査方法自体が問題となる研究であったが、その現在の調査手法自体も援助交際自体の変化に対応できなくなっていると感じた。

文献・資料

- 家田荘子, 2004, 『歌舞伎町シノギの人々』, 主婦と生活社.
- 警察庁生活安全局保安課, 2011, 『平成22年中における風俗関係事犯の取り締まり状況等について』.
- 沖縄タイムス, 2011.8.17, 「高校教師14歳買春容疑」『沖縄タイムス』朝刊1版23面.
- 圓田浩二, 2001, 『誰が誰に何を売なのか?ー援助交際に見る性・愛・コミュニケーションー』, 関西学院大学出版会.
- 圓田浩二, 2004, 「援助交際のフィールドワーク」好井裕明・三浦耕吉郎編『社会学的フィールドワーク』, 世界思想社所収, pp.167-200.
- 圓田浩二, 2005, 「少女を巡る売買春への対応ー沖縄における援助交際問題ー」『現代の社会病理』第20号, pp.35-48.
- 圓田浩二, 2006, 『援交少女とロリコン男ーロリコン化する日本社会ー』, 洋泉社.
- 圓田浩二, 2011, 「ポルノ化する援助交際ー「援交もの」と児童ポルノー」大浦康編『共同研究ポルノグラフィ』, 平凡社所収, pp.268-287.
- 荻上チキ, 2011, 「現代日本の売春ー「出会い系」調査ノートよりー」『αシノドス』71号.
- 斉藤学, 1998, 『アダルト・チルドレンと家族』, 学陽書房（文庫）.

参照URL

- 神戸新聞, 2011.8.11, 「オンラインゲームで高額請求 中学生以下のトラブル増」 <https://gyo.tc/C1qx> (2022年8月24日参照).
- 時事通信社, 2010.4.30, 「女子中生に売春させる＝容疑で男子高生逮捕ー「援デリ」、1千万売

「援交ブーム」以降の援助交際

り上げか」 <http://1ycwil9u7o.jugem.jp/?eid=49> (2022年8月24日参照).

産経新聞, 2010.5.21, 「関西学院大の学生ら、女子高生3人を含む女性30人にデリヘル売春させる」

<http://sankei.jp.msn.com/affairs/crime/100521/crm1005211330012-n1.htm> (2010年5月21日参照).